【B：クリーンスポーツ行動・習慣化】

　11ページから14ページ

　Codeにおけるアスリート及びサポートスタッフの権利と責務。

アスリートにはクリーンスポーツに参加する権利と、役割と責務がある。全てのアスリートの権利を守るため、自身の役割と責務を果たす行動が必要。

▶この章の目標

1. コードと関連付け、アスリートの権利と責務は何か、その重要性と併せて説明できる。
2. 周りの人と協力して、アスリートの権利を守る行動と、責務を果たす行動がとれる。

▶アスリートの権利と責務

Codeには、違反項目や制裁のルールだけでなく、アスリートやサポートスタッフ、スポーツに関係する組織の役割と責務が定められています。

▶権利

アスリートには、クリーンスポーツに参加する権利があります。自身の権利を理解し、正しく行使することで、自分自身を守り、クリーンスポーツを育んでいくことができます。

▶役割と責務

スポーツに参加する上で、アスリートには役割と責務があります。役割と責務は、アスリート一人一人が、自身の権利を守るために果たすべき行動です。サポートスタッフにも同様に、役割と責務があります。

Codeと8つの国際基準の各所に記載されているアスリートの権利は、「アンチ・ドーピングにおけるアスリートの権利宣言（Athlete Act）」として、1つの書式にまとめられています。

▶アスリートのクリーンスポーツに参加する権利

アスリートは最高のパフォーマンスを発揮するために、自身の可能性を追求するための平等な機会を与えられる権利を持っています。競技会自体、そしてスポーツ環境全体が、クリーンでフェアであることを確証できる権利を、アスリートは有しています。クリーンスポーツ実現のため、アスリートが自身の権利を行使し、役割と責務を果たすことが不可欠です。

▶アスリートが権利を行使できる場面

アスリートが自身の権利を守るために、どのような権利があるかを正しく知るだけでなく、どのような場面でその権利が行使できるのかを理解し、自分自身、そして他者とも協力して行動していきましょう。3ページから4ページの「クリーンスポーツ・フェアネス・マップ」から、権利を行使できる具体的な場面や、権利の行使のためにどのような人たち（コーチ・監督、医師等）に働きかけ、より良いスポーツ環境を創っていけるかを考えてみましょう。

例：教育を受ける権利、健康でスポーツに参加する権利、公平・公正な検査を受ける権利

▶アスリートの7つの役割と責務

1. ルールを理解し守る

全世界・全スポーツ統一のルール＝コード。スポーツに参加する際のルールとして、アスリート自身がコードを理解し、守り、リスペクトすることが求められる。そのうえで、自身の権利を行使でき、スポーツに参加できる。

2. いつでも・どこでも検査に対応

ドーピング検査は、アスリート自らがクリーンであることを証明し、クリーンスポーツを守るためのもの。アスリートがいつでも・どこでも検査を受けることで、自分自身のクリーンさを証明できる。自身のパフォーマンスが「真なるもの」であることに誇りを持とう。

3. 体内に摂り入れる物に責任を持つ

自身が摂取する物全てに対して、責任を負うこと。スポーツで禁止されている物質や方法があることを理解し、自身で適切な情報を適切な専門家から得ること。そして禁止物質が体内に入らないよう、責任を持って行動し、いつでも自身の「クリーンスポーツ行動」を証明できるようにする。

4. アスリートとしての自分の立場と責務を伝える

医師や薬剤師に対して、自身がアスリートであり、スポーツにおいて禁止される物質や方法があることを、治療や薬が処方される前に必ず伝える。そして、相談・確認した内容を記録し、いつでも自身の「クリーンスポーツ行動」を証明できるようにする。

5. 過去の違反を正直に伝える

過去10年間で、国内アンチ・ドーピング機関（ナド）や国際競技連盟（IF）以外によって認定されたアンチ・ドーピング規則違反があった場合は、ナドと自身の競技のIFに伝えること。

6. ドーピング調査に協力する

自分自身が関わっていてもいなくても、クリーンでフェアなスポーツのために、ドーピング行為を見、聞き、知り、発見した時に、アンチ・ドーピング機関に情報の提供や調査に協力すること。

7. サポートスタッフの身分を開示

アンチ・ドーピング機関に求められた場合、自身のサポートスタッフ（コーチ・監督、スポーツ関係者、医療関係者、保護者や家族等）の身分を明かすこと。

▶サポートスタッフの役割と責務

コーチ・監督、スポーツ関係者、医療関係者、保護者や家族等、全てのサポートスタッフにはクリーンスポーツ環境を創る責務がある。そのため、Codeにはサポートスタッフの【6つの役割と責務】が定められている。特に、アスリートがクリーンスポーツ行動を自らとれるように、サポートスタッフからの日常の働きかけや教育が大切。